

日本赤十字社青森県支部 〒030-0861 青森市長島1丁目3番1号 TEL 017-722-2011 <http://www.aomori.jrc.or.jp>

県内各地で様々な取り組み

みんなで取り組もう新型コロナウイルス感染症への感染防止対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、ボランティア活動などの自粛を余儀なくされる中、全国の各奉仕団では、材料調達に工夫しながら、児童や生徒、福祉施設の利用者などに使ってもらえるよう、布マスクの作製や医療現場で不足しているフェイスマスクやビニールエプロンを作製し、寄贈する活動が行われました。

また、教育現場でも休校などが続く中、学校や子どもたち同士で感染拡大を防ぐための一助として学ぶことができる教材が青少年赤十字加盟校を中心に周知されました。

当県においても、地域でボランティア活動を行っている赤十字奉仕団が、全国的に不足しているマスクに注目し、布マスクを作製し、活動にあたっては、3つの密(密閉・密集・密接)を避け、マスク着用や手指消毒などの安全確保に努めました。

作製されたマスクは、福祉施設や学校に寄贈され、施設利用者や児童・生徒に配付されました。

県内で取り組まれた活動内容は、以下のとおり。

県内で取り組まれたボランティア活動

(令和2年6月30日現在)

市町村名	奉仕団名	活動内容	寄贈日
五所川原市	五所川原市赤十字奉仕団 五所川原分団	・布マスク 700 枚を五所川原市教育委員会を通じて市内小学校へ寄贈(新入生児童向け) ・布マスク 1,000 枚を五所川原市社会福祉協議会へ寄贈(高齢者向け)	4月20日
五所川原市金木	金木町赤十字奉仕団	・布マスク 200 枚を地区内の幼稚園などの子ども施設3施設へ寄贈	6月16日
十和田市	十和田市赤十字奉仕団 元町分団	・布マスク 60 枚を奉仕団員が講師となり、町内会員と作製	-
むつ市大畑	むつ市大畑分団 赤十字奉仕団	・赤十字活動 PR 用の不織布マスク 431 枚をむつ市教育委員会を通じて区内小中学校へ寄贈	4月27、28日
つがる市	つがる市赤十字奉仕団 木造分団第3班	・布マスク 200 枚を市立木造中学校へ寄贈	5月
藤崎町	藤崎町赤十字奉仕団	・布マスク 150 枚を町内福祉施設へ寄贈	5月7日
野辺地町	野辺地町赤十字奉仕団	・布マスク 100 枚を野辺地町を通じて老人福祉施設へ寄贈	4月20日
横浜町	横浜町赤十字奉仕団民児協分団、うつぎ会分団、豊栄分団、シニア友愛分団	・布マスク 130 枚を横浜町を通じて町内老人福祉施設2施設へ寄贈	5月20日
東北町	東北町赤十字奉仕団	・布マスク 280 枚を町内福祉施設2施設へ寄贈	4月20日
六ヶ所村	六ヶ所村赤十字奉仕団	・布マスク 6,000 枚を村の委託を受け、作製に協力	対象世帯へ 随時配付



子ども施設に布マスクを寄贈した
金木町赤十字奉仕団



手作り布マスクを野辺地町に寄贈した
野辺地町赤十字奉仕団



不織布マスクを大畑中学校に寄贈した
むつ市大畑分団赤十字奉仕団



布マスクを横浜町に寄贈した
横浜町赤十字奉仕団民児協分団ら



布マスクを作製する
五所川原市赤十字奉仕団五所川原分団



布マスクを町内福祉施設へ寄贈した
東北町赤十字奉仕団

緊急事態宣言解除後、県内初の救急法講習会を開催



感染防止対策を講じて実施された講習会

新型コロナウイルス感染症の影響により、密接環境となる安全法講習会は、受講者や指導員の安全確保が担保できないことから、5月末日まで延期や中止の措置が取られました。

日本赤十字社は、6月以降の講習会実施の要件として、3つの密(密閉・密集・密接)の防止や基本的な感染予防対策(手指消毒・マスクの着用)、受講者の体調管理などの項目を設けました。

それらの実施要件をすべて満たし、緊急事態宣言後、県内で初となる救急法講習会が、6月3日、八戸市立函南小学校(鈴木規夫校長)の教職員を対象に開催され、心肺蘇生やAEDを用いた除細動について学びました。

講習指導にあたった同校養護教諭大黒恵里子指導員は、受講生に対し、「体調に変化があったら教えてください。」「マスク着用での胸骨圧迫は息苦しくなるので、交代して行ってください。」「と呼びかけました。

受講生からは、「マスクを着用して胸骨圧迫をするのは、予想以上に大変だった。」「今後は、倒れている人がいる場合は、新型コロナウイルス感染症の疑いがあるものと思い、今日学んだことを実践したい。」などの感想が寄せられました。

救急法講習会などの安全法講習会に関するお問い合わせは、事業推進課まで

令和2年度赤十字会員増強・活動資金増収運動実施中!

赤十字を支えるあなたの“ちから” 赤十字会員の加入、活動資金(会費・寄付金)のご協力をお願いいたします。

感染防止対策を徹底～血液の安定供給のため、継続的な献血を～

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、献血協力企業の日程の延期やイベントの中止、外出の自粛などの影響により、献血協力者が大きく減少し、輸血用血液の安定供給に支障をきたす恐れがありました。青森県赤十字血液センターにおいて、報道機関から取材をいただきながら献血の積極的な呼びかけ、また、献血会場の感染防止対策を講じたところ、多くの皆さまに協力いただき、安定供給を行うことができました。

しかしながら、輸血用血液は人工的に造ることができず、長期保存ができないことから、医療機関への安定供給のためには、継続的な協力が必要不可欠です。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

～献血会場の感染防止対策～

県内の各献血会場では、従来の安全対策に加え、以下の感染防止対策を講じています。

- ・十分な換気などによる3つの密(密閉、密集、密接)の回避
- ・献血で使用する機器のこまめな消毒
- ・献血に協力いただく皆さまへの体温測定、手指消毒やマスク着用をお願い

～献血Web会員サービス“ラブラッド”で献血予約～

輸血用血液には、有効期間が定められていることから、日々必要な献血量に対して、多すぎると在庫過剰となり、少なすぎると安定供給に支障をきたす恐れがあります。

そのため、青森県赤十字血液センターは、Webにより献血予約が可能な献血Web

会員サービス“ラブラッド”への入会をお願いしています。献血予約の普及により、事前に協力人数が把握でき、必要な献血依頼が可能になると考えております。会員登録は、パソコンやスマートフォンで簡単に登録することができます。

(<https://www.kenketsu.jp/Login>)

献血に関するお問い合わせは、青森県赤十字血液センター 献血推進課(TEL017-741-1512)まで



第2波の流行に備え、院内対策を継続

八戸赤十字病院は、新型コロナウイルス感染症対策のため、2月5日、院内に対策本部を設置しました。

対策本部では、新型コロナウイルス疑似症の対応フロー図の作成や個人防護具の着脱手順動画の作成整備、流行時に備えた診療チームの編成や診療の縮小、資材在庫数の確認などについて検討されました。

現在、実施されている対策は以下のとおりです。

実施期間	対策内容
2月3日～	発熱者の受診専用ルートの確保、受診受け入れ準備の開始
2月28日～	面会中止
3月5日～	病院職員・病院長来訪者の体温・体調確認
4月24日～	外来座席の配置を設置変更、各ブロック受付へのアクリル板設置
7月1日～	サーマルカメラ導入(正面玄関+救急入口)



感染防止のため、座席配置の設置変更が行われた外来



自動再来受付機前の密を避けるため、間隔が空けられた外来受付

赤十字活動資金は前年度比8.91%の減～令和元年度事業報告と歳入歳出決算を承認～

第160回支部評議員会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮し、文書審議が行われ、青森県支部及び管内施設の令和元年度事業報告及び歳入歳出決算並びに監査委員の選出について、それぞれ承認されました。

令和元年度も多くの県民ならびに法人(企業・団体)の皆さまからの支援によって支えられ、赤十字活動を実施することができましたことを心より厚く御礼申し上げます。

さて、青森県支部の赤十字活動を実施するにあたり、歳入のおよそ8割が県内の赤十字会員が納付する会費(会費・寄付金)で賄われています。

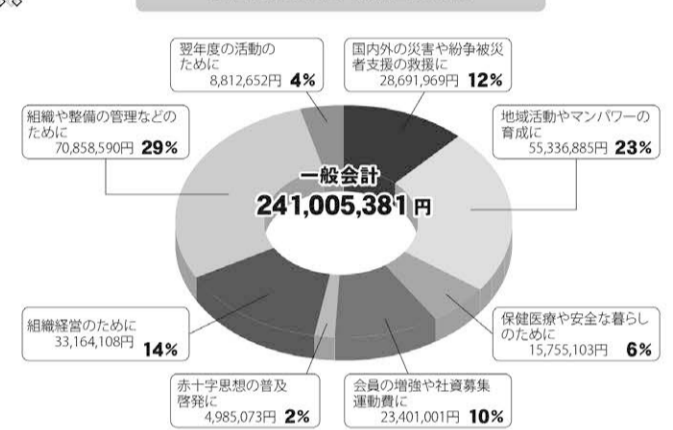
令和元年度における赤十字活動資金(以下、活動資金という。)実績額は、1億8千116万1千円となり、前年度比で8.91%の(1千771万3千円)の大幅な減となり、その

大きな要因として、赤十字会員の減少が挙げられます。

県民ならびに法人の皆さまにおかれましては、災害救護活動をはじめ、いのちを救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える各種講習、地域に根ざしたボランティア活動を行う赤十字奉仕団や青少年赤十字メンバーの育成など、いのちと健康を守るために行われている赤十字活動にご理解をいただき、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い県内経済が大きな打撃を受けている中で誠に恐縮ではございますが、令和2年度の活動資金募集に引き続きご協力くださいますよう、よろしくお願いたします。

活動資金募集に関するお問い合わせは、組織振興課 会員係まで

【令和元年度の歳出決算】



“知る、見る” 赤十字

日本赤十字社新型コロナウイルス感染症に対する活動報告

日本赤十字社は、全国の赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症の治療および感染拡大防止のための活動に取り組んでおります。

医師・看護師が中心となって、感染者の治療にあたっている赤十字病院だけでなく、ダイヤモンド・プリンセス号への救護班の派遣や、感染拡大防止のための情報発信などに務めています。

皆さまと力を合わせて、感染防止活動を広げていきたいと思っておりますので、活動へのご理解をよろしくお願いいたします。

詳しくは、日本赤十字社ホームページをご覧ください。

<http://campaign.jrc.or.jp/kansensho/>

赤十字ネットワークニュース

現在受付中の国内自然災害義援金

現在受付中の国内自然災害義援金と受付期間は以下のとおりです。

- 令和2年7月豪雨災害義援金 令和2年12月28日まで
- 令和元年台風第19号災害義援金 令和3年3月31日まで
- 令和元年8月豪雨災害義援金 令和2年8月31日まで
- 平成30年7月豪雨災害義援金 令和3年6月30日まで
- 東日本大震災義援金 令和3年3月31日まで
- 平成28年熊本地震災害義援金(対象:熊本県) 令和3年3月31日まで
- 平成29年7月5日からの大雨災害義援金 令和3年3月31日まで

新型コロナウイルス感染防止に伴う赤十字のアクション

日本赤十字社では、「人のいのちと健康を守る」という使命のもと、全国の赤十字施設を挙げて以下の取り組みを行っています。

新型コロナウイルス問題への対応

救護班の派遣(クルーズ船、施設等)

感染予防啓発活動(動画配信・パンフレット)

患者の受入(感染症指定医療機関等として)

深刻な血液不足への対応

感染防止のための社内の取り組み

リモートワークの導入

消毒等衛生管理の徹底

WEB会議の積極活用

講習会・密接環境でのボランティア活動の延期や中止

医療機関(赤十字病院)及び血液事業(献血)等は、通常どおり運営しています。 ※ただし、施設によっては外来診療等を停止している場合があります。

私たちが直面している新型コロナウイルスへの取り組みをはじめ、台風や地震などの災害に備える赤十字の活動は、皆さまからの会費やご寄付で成り立っています。赤十字の活動資金にご協力ください。

詳しい活動については

日赤 検索

献血は“16～69歳まで可能です!”

※65～69歳までの方は、60～64歳の間に献血経験のある方に限ります

献血ルーム ■全血献血/9:30～12:30、13:45～17:00
受付時間 ■成分献血/9:30～11:50、13:45～16:20

- 青森献血ルーム ☎ダイヤル0120-649-489 青森市長島1丁目3番1号 日赤ビル4階
- 弘前献血ルーム「CoCoSA(ココサ)」 ☎ダイヤル0120-768-489 弘前市駅前町8-1 大町タウンビル2階
- 青森県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/aomori/index.html>

